



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

昔と今の自然を後世へ伝える郷土の財産

標本収蔵庫と学芸員

展示は顔、収蔵庫は心臓、標本は収蔵庫から展示に送り出す血液

姫路科学館 学芸担当 相楽 充紀

博物館・科学館の役割は、資料の収集・保管、調査・研究、展示・普及など多岐にわたり、その舞台裏で非常に重要なのが収蔵庫です。科学館には標本収蔵庫として6つの収蔵室(本館2階に第1~4、別棟に第5~6)があり、テーマ、トピックスや季節などに合わせて展示標本を入れ替えています。特筆する収蔵標本では、大英博物館の2倍以上ある世界のトリバネアゲハ類標本数、国内3位の鳥類標本数や播磨のきのこ標本などがあります。しかし収蔵庫は単なる標本倉庫ではなく、昔と今の自然を後世へと伝えるための郷土の財産を保存する宝箱です。写真1は1903年の県内海藻標本ラベルで、科学館収蔵標本で最も古いと思われます。100年以上経た標本でも、採集記録、保存状態が良ければ、昔の自然を知る手がかりになります。生物・地質標本展示をするためには、その展示物の何百倍以上もの標本を収集収蔵し維持管理しなければなりません。今回は標本収蔵庫の役割を紹介します。

■ 標本の「焼失防止」

写真2は本館収蔵室の耐火扉で、銀行の金庫並みの分厚さがあります。収蔵室の最も重要な役割は標本を守ることです。外で火事が発生しても収蔵室内への延焼を防止します。外気、荒天や津波等の影響を防ぐために窓がありません。また、標本盗難防止に常時施錠しています。

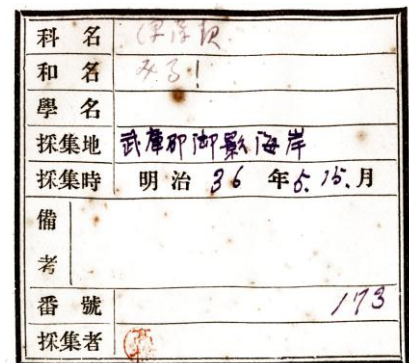


写真1 明治36年の標本ラベル



写真2 第1収蔵室耐火扉



写真3 第4収蔵室自動消火設備

写真3は収蔵室内に設置しているハロン1301自動消火設備です。もし収蔵室内で火事が起こった場合にはここから消火ガスが噴出し標本の焼失を防ぎます。消火ガスは有毒のため、警報が鳴ったら速やかに収蔵室から退出し、安全な場所に避難します。

■標本の敵1「カビ」の防止

写真4は本館収蔵室の空調制御する機器です。各収蔵室の温度・湿度を独立した系統で管理しています。各収蔵室内は通年室温20℃前後、相対湿度50%以下に設定します。しかし梅雨時や夏は多湿になるため、家庭用除湿機を使用し、カビ発生防止に細心の注意を払っています。収蔵室の扉の開閉は最小限にする、収蔵室内土足厳禁、入口の粘着マットによる靴底付着物除去などカビ発生の予防原則を徹底しています。

■標本の敵2「虫害」の防止

タンスの衣類が虫に食われた経験ありませんか？標本も同じで、カツオブシムシの仲間などが標本を食害し、ボロボロにしてしまいます。害虫が発生していないか全ての標本をチェックし、害虫が発見された収蔵室では薬剤を噴霧・充填し殺虫処理をします(写真5)。標本箱には市販防虫剤を封入し(写真6)、定期的に交換することで防虫処理をしています。

■標本のデータ管理

収蔵標本は種、採集地、採集者、採集日、格納場所などを調査し、データベース化します。これにより、どの標本がどこにあるのかすぐに分かるようになります。またGBIF(地球規模生物多様性情報機構)のデータベースに館収蔵標本データを登録することで、地球のどこからでも姫路科学館にどんな標本が収蔵されているのか検索できるようになり、地方の科学館でも生物多様性への世界貢献に大きく役立ちます。現在、未整理の標本情報の分類と新たな播磨の自然史標本の収集を地道に行っています(写真7)。

※標本や展示等の専門職「学芸員」という国家資格

学芸員とは博物館法に定められた国家資格です。大学で学芸員養成課程の科目を履修し、現場での実習を経て取得しますが、姫路科学館でも毎年博物館実習生を受入れています。

また今年度から小5～中3を対象に学芸員の仕事を体験してもらおうと、1年間連続講座の「自然系ジュニア学芸員講座」を開講し、展示や標本管理等に挑戦していただきました。平成25年度も自然系ジュニア学芸員講座を開講、募集予定です。自然好きで、自分で「調べ」「考える」ことが好きな方は、ホームページで講座情報を確認しぜひ応募して下さい。



写真4 収蔵室空調を制御する機器



写真5 収蔵室の殺虫薬剤噴霧作業



写真6 標本箱に防虫剤封入



写真7 標本調査・データ整理をする自然系ジュニア学芸員講座生